

答 辞

冬の寒さも和らぎ、桜のつぼみが色づき始め、心華やぐ季節となりました。本日は新型コロナウイルス流行のなか、私たち卒業生のために式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。

また、ご多忙のなかご出席くださいました、ご来賓の皆さま、池上学長をはじめとする諸先生方、並びに関係者の皆さまに、卒業生一同、御礼申し上げます。

四年前の春、私は長崎総合科学大学に入学しました。大きな不安と期待を胸に入学式の会場へ足を運んだことを鮮明に覚えています。当初、こんなに楽しく、充実した四年間を送れることは想像できたでしょうか。

この四年間で、学業やサークル活動など、予想をはるかにこえる、様々な経験をしました。今まで学んだことのない専門的な授業に苦戦しながらも、共に励まし合いながら課題やテストに取り組んだこと。サークル活動において、友人、先輩や後輩たちと貴重な時間を共有できたこと。イタリアの研修旅行で異文化や建築について学んだこと。研究室で、卒業設計を存分にやり切ったこと。いずれも、自分で努力をし、何かを達成したという経験が、私に自信を与えてくれました。また、学業においても課外活動においても、多くの人々と出会い、関わりながら過ごしたことで、視野が広がり、かつ、色々な考え方で物事を捉えられるようになったと感じています。勉強して得た「知識」だけではなく、大学生活でのすべてが、今の私を形づくっており、全ての経験が将来の糧になると、今では確信しています。

そして、何より私たちが支え導いてくださった多くの方の存在があり、成長することができました。今日まであたたかく見守りご指導くださった先生方、私たちを一番近くで支え続けてくれたえた家族に、心より感謝致します。

私たちは四月から、新しい環境でそれぞれの道を歩んでいきます。長崎総合科学大学を旅立つことは名残惜しいですが、この四年間に得た全ての経験を活かし、社会に貢献できるようたゆみない挑戦と成長を続けて参ります。

本日は、本当にありがとうございました。長崎総合科学大学の更なる発展と、皆様方の更なるご活躍を心からお祈り申し上げます、答辞と致します。

令和三年三月十六日

長崎総合科学大学

学部生代表 大川 朝妃